

## Withコロナ時代における 困窮家庭の子ども「体験格差」 調査事業

NPO法人チャリティーサンタ

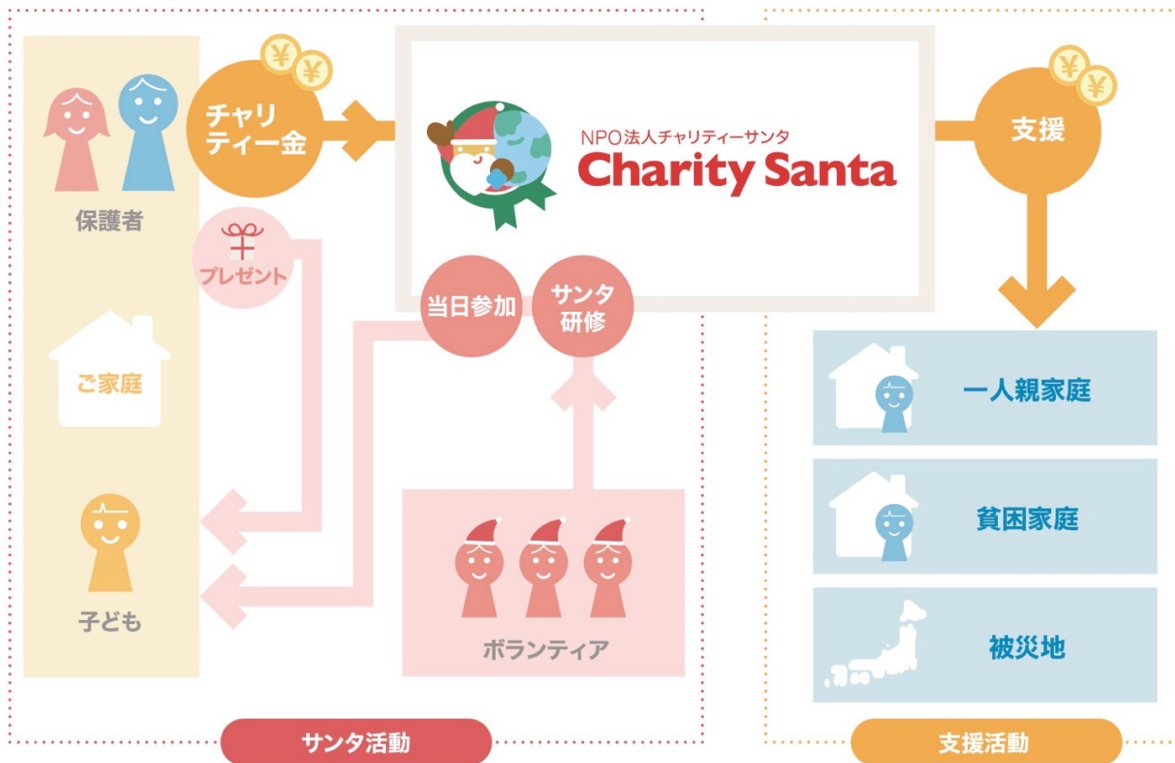
## 調査情報

団体紹介	…	P.3
調査目的	…	P.4
調査方法	…	P.5
仮説	…	P.6
調査概要	…	P.7

## 調査結果

アンケートで届いた声	…	P.8～21
1年間で行ったもの	…	P.22
コロナ禍で不足した事	…	P.23
生活のしんどさ	…	P.24
頼れる相手	…	P.25
誕生日プレゼント	…	P.26
誕生日ケーキ	…	P.27
誕生日の感情	…	P.28
まとめ	…	P.29
今後の取組への活用	…	P.30
調査票	…	P.31～32

ミッション：子どもたちに、愛された記憶を残すこと  
ビジョン：子どものために大人が手を取り合う社会



## ■団体略歴

- 2008 活動開始
- 2014 NPO法人化
- 2015 困窮家庭支援
- 2016 調査開始・白書
- 2019 岡山市協働開始



全国の家・施設などにサンタ(ボランティア)を派遣し、子どもたちに「クリスマスの特別な体験」を届け、思い出を残す取組。一般家庭は有償、困窮家庭は無償。述べ4万人を超える子どもに届ける。

その他、全国450書店&120の子ども支援団体と連携し、新品の本を子どもたちへ届けるブックサンタ等も行う。昨年は3.5万冊の寄付が集まる。

※30都道府県42支部で活動 (2021/12時点)

※2020年度事業規模：3,385万 (寄付&会費71%、事業収入15%、助成&補助金7%、その他7%)

※特定の国や宗教とは関係ありません

## 目的

- ①新型コロナの慢性化に伴う、困窮世帯の家庭の状況を明らかにするとともに、子どもの体験の不足感や保護者の喪失感の状態を確認する。
- ②「子どもの体験や思い出」を支援する団体として、今後の活動の指標となる数値を調査する。特に「子どもの誕生日」について確認する。

## 調査方法

調査時期：2021年10～12月

調査方法：オンラインアンケート

対象者：主に2～10歳程度の子どもがいる家庭。エリアは約30都道府県。

メイン対象：困窮家庭

経済的困難を抱える子育て家庭【2,118世帯】

### 【困窮家庭】子ども人数別の家庭数(実数の内訳)

1人	2人	3人	4人	5人	6人	合計
1107	677	245	63	17	9	2,118

比較対象：一般家庭

サンタ訪問活動(有償)の利用家庭【876世帯】

### 【一般家庭】子ども人数別の家庭数(実数の内訳)

1人	2人	3人	4人	5人	6人	合計
280	394	134	44	15	9	876

## 分析ポイント

- 一般家庭と比較する
- 世帯毎の子どもの人数による影響をクロス集計する

## 申請時点（2021年3月）で設定した仮説

2020年においては、経済的な余裕に関係なく大半の家庭において体験活動が自粛されていた。しかし、2021年に入ってからには経済的に余裕のある家庭は選択肢が増え、様々な体験が復活していくと想定し、その結果「体験の格差」が大きく出ているのではという仮説を立てた。

申請時点では、第3波がおさまり社会は落ち着きを取り戻しつつある状況であった。しかし、その後2021年内に第4波・第5波が訪れ、当初の仮説はそのまま使えるものではなくなった。

## 概要

困窮世帯においては、新型コロナの影響以前からイベント等への参加のしづらさ、情報の欠如等、孤立しがちな状況にある。

また、金銭的・時間的制約から親子がともに過ごす時間を十分に持ちづらく、心の安定や子ども・親の自己肯定感が育ちにくい状況にある。

そのため、自己肯定感が低いために、将来への希望や選択肢を持たないまま成長することが貧困の連鎖を断つことを困難にする一要因となっていると考えられる。

新型コロナの影響を受け、その影響が慢性化するなかで「体験」においては金銭的にかかる部分においては補えない分、格差が生じていると考えられる。

withコロナのなかでの、困窮家庭の体験のあり方と、どのようになれば支援を受けれるかを明らかにする。

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

※一部を抜粋します（順不同）

「夏休みはどこにもつれて行ってあげられませんでした。預け先もみつけられず、一日中留守番をさせてました。生活習慣や学習習慣が乱れました。経済力のなさ、マンパワー不足のため仕方ないのですが、結局子供にしわ寄せがくることを実感し落ち込みました。」

「1番下の子の一歳のお誕生日の日に、誕生児には食パンにヨーグルトを塗ってサツマイモを飾ったケーキを用意したが、上の子たちの分のケーキが無くて、1番上の子が静かに泣いていた」

「私が体調を壊し、働けなくなり、日々の生活が大変苦しくなっていました。子供はもし私がいなくなるのなら、自分も一緒に死にたいと泣きながら寝ます。私もとても辛いです。」

「子供が焼肉食べたいとか外でご飯を食べたいと言ってきても金銭的に苦しくて連れていけなかった事、新しい服が欲しいと言われた時も、今有る服でどうにかしてと言って我慢させてしまった事、子供が求めている事にほとんど応えることができなかった。その為子供は、どうせ言っても無理だから、と要求してこなくなりました。それが申し訳なくて辛いです。」



## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「おまつりや地域のイベント、無償や安いイベント等も無くなり、無料で行ける動物園や水族館等も閉鎖や予約制になったり…。

お金が無い家には、どこにも連れて行ってあげることが出来なくなりました。住まいが古く汚い都営住宅ですし、スペースも無く散らかっているのでオンラインイベントに参加する事も躊躇してしまい申し込む勇気はありませんでした。」

「もし感染してしまったら、仕事を休まなければならないので収入は減るし、何より命を危険に晒すことはできません。家族の人生全てが、ひとり親である私の肩にずっしりとかかっています。」

「キャンプや身体を動かすような場所や、たまには遊園地などにも連れてってあげたかったです。お友達の家はセグウェイをぽんと買ったりしてるようで、もう六年生なので貧富の差は感じているようです。大好きなお寿司もお腹いっぱい食べさせてあげたいし、ファミチキも何個でも買ってあげたいです。映画館にも連れてってあげたいし、ちんちくりんの制服もサイズがちゃんとあったものを買ってあげたい。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「感染症や自粛生活のため、ショッピングモールにもフリマにも行けずこの2年で息子の体格が良くなったため服がまったく合わなくなっており先日ようやくリユース・セール等で合うサイズの服を用意できた。」

「3歳半になり、いろいろわかるようになった息子。コロナ禍以来、子父には会っておりません。でも園などで見かける家族を見て「パパに会いたい」「パパとママと3人で手を繋いでお出かけしたい」とよく口にするようになりました。

3人で手を繋いでお出かけさせてあげたい。でも、子父はコロナ禍もあり、東京へは絶対に来ません。子父のところに行くには新幹線に乗らなくてはなりません。往復で3万円弱。さらに日帰りとは行かず、ホテル代。情けないですがかなり厳しいです。

息子が会いたがってる子父に会いに、そして子父と一緒にきたがっている家族3人での憧れの水族館に連れて行って大好きなエイや白イルカを見せてあげたかったです。」

「海にも1度も連れて行ったことがない。どこかに連れて行くことができなくなってしまった。もっといっぱい思い出を作ってあげたかったしやっと興味が出てきたのに動物園にも水族館にも連れて行ってない。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「癩癩もあり、膝の力も抜けたりするのでそちらをカバーする物ばかりで、生活が厳しく下の子の宝物のおもちゃや、ゲーム等を買ってしまいました。それが親として情けないです。長男も使わないから売っていいよと。こどもに悲しい想いをさせた情けない親です。」

「コンビニのホットスナックを買ってあげられなかったり、大好きな回転寿司に連れて行ってあげられなかったり、マンパワー不足と金銭的な理由もあり、銭湯も遊園地も連れて行ってあげられませんでした。」

「コロナがなければ、少しでも子供と外出したりしたかったなあと思います。本が好きな子なので、図書館に行ったり、自然が好きなので公園に行ったりなどかしたかったです。」

「月1回の外食ができなくなりました。また学校に払うお金が払えず延長、延長。学校で使う物(ふでばこ等)買えなくて喧嘩になることも…。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「3歳になったのでプールデビューを考えて、ネスタリゾート利用や王子プールや動物園、海など連れて行ってあげたかったけど全部なくなり、家でマクドナルドを食べるのが唯一の贅沢でした。」

「初詣で着物を着てお参りをし、好きな獅子舞を見学したり季節ならではの体験が出来なかった。花火大会にも行ったことがなく、父親からの入金がなくまた行かせてあげる経済的余裕もなかった。年一回はユニバーサルスタジオへ旅行を計画していたが、経済的余裕がなく温泉にも連れて行ってあげられなかった。」

「長女、二女は年齢的にもどうしても新しい服が欲しかったり長男は新しいゲームが欲しいと思うのですが、父子家庭のためか子供達は何も言わず勿体無いと行ってきて我慢してくれています。そのためサンタさんに頼むから大丈夫だよと言っています。」

「靴を買ってあげられない。文房具さえも買ってあげられない。」

「8月のお誕生日に旅行に行きたいと娘が言っていましたが、緊急事態宣言や自身の収入減で連れて行ってあげることが出来ませんでした。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「私自身の収入が減り、養育費も払ってもらえなくなったので、途方に暮れる日々で、必要最低限の物しか買ってあげられなかったです。春休みや夏休みの思い出も作ってやれなかったですし、おやつも本人の希望する物を与えてあげられなかったと思います。」

「沢山ありすぎてわかりません。たださえ、他の家庭より出来てません。子供たちから聞く不満が絶えないです。」

「キャンプやバーベキューしたかったけど、2人では中々行こうとは思えず、いつも一緒に楽しんでいた友人を誘う事もコロナから何となく無くなってしまった。」

「キャンプしたいといわれたがお金がない為断念。実家にも帰れず、休みの日はずっと家の中で過ごした」

「近所の子がプールやバーベキューをされていて、羨ましがっていましたが、そんな余裕もなかったのだからかなえてあげることができなかった」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「パソコンやゲーム機等が無いと、凄く我慢をさせてしまっていると思います。プールも引っ越してやっと出来そうな賃貸に引っ越し出来ましたが、夏が終わってしまいましたので来年は…と思います。キャンプや旅行をしたお友達も多かったようですが金銭的にもコロナも怖かったため、母の住む県外へ行くことも中止にしたため何もしてやれてません。下の子のお誕生日が9月でしたが、ケーキと食べたいものを食べさせる事と、中古の自転車を買ってあげる事で精一杯で、遊び道具も学校や保育園で縄跳びが必要になり、購入したものを喜んで貰えただけで…本当に必要な物を優先して買うことが精一杯な状況です。」

「夏に出かけられなかった。欲しいおもちゃを買ってあげられなかった。新しい本を買えなかった。行きたがってた旅行に行けなかった。」

「電車やバスに乗せてあげたかったけれど、新型コロナ感染こわくてできなかった。」

「主人が亡くなってから毎日朝から晩まで必死に働いていますが、コロナ禍で収入は激減し不安と余裕のない毎日です。子供達の心のケアをしなければと思いながらも、仕事に追われて母親として子供達のためにやれていないことばかりです。子供達との時間を、もっと大切にしたいです。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「たくさんのお金は使うことはできませんが、自然にふれた遊びや公園などたくさん連れて行ってあげたかったのですが、公園の駐車場閉鎖などでめっきり外出が減りました。当然県外にもでられません。ひとり親になってからディズニーランドなどテーマパークにも連れて行ってあげられていないので、外出できるといいなと思います。収入が減ってしまっているのでも…お金があればですが…」

「子どもが参加できるいろんなイベントに参加させてあげたかったのですが、コロナで中止が相次ぎ、参加させてあげることができませんでした。」

「急激な経済力の悪化で、子供たちの習い事は全て辞めさせた。受験希望だったのに転校で白紙にさせた。」

「子どもの好きな博物館・電車に乗る機会、外出を伴う体験に関する事がしてあげたかったが出来なかった。あとはコロナ禍でなくても一般的な家庭が持っているゲーム機やお金のかかるおもちゃのプレゼント、サイズアウトした服の買い直し、旅行等は相変わらず経済力が無い為してあげたくても十分に出来なかった。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「水族館や動物園が好きなので、行かせてあげたかった(車に乗れないので、電車でしか行けず、マスクで苦しくても可哀想なので、行きませんでした)」

「もっといろいろな場所に連れて行ってあげたかったです。絵本も買えないので、今は図書館を利用しています」

「兄弟全員に学習用にタブレットを用意してあげたかったけれども、兄弟が多いために、用意出来ず上の子2人ではスマホでどうにかして、下の2人は母のスマホで対応させたりと色々面倒をかけさせてしまいました。」

「本が好きですがコロナで学校の図書室の本が借りれずなかなか購入できないので読む本を増やしてあげられなかったり何かを買ってあげた記憶がない一年だったので来年は洋服や欲しいものがあったら1つは買ってあげたいと思います。  
また、映画や動物園などにも行きたがっているので行かれるならサファリパークやぞうの国、ドイツ村などに連れて行ってあげたら喜ぶだろうなあと考えています」



## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「家で退屈にならずに過ごせるおもちゃなどの購入ができればよかった。感染が怖くて児童館などに行けなかったのも、家で退屈にすごしていて、テレビで時間を凌いでしまった。」

「本当は新品の本やおもちゃを誕生日にあげたかったけれど、やはりコロナで勤務時間が減ってしまったので、こどもに申し訳なかったなあと。」

「もっと自然と触れ合いたい例えば今年こそは海!!見せてあげたいと思ってもできなかったり、水族館行きたいと言われてましたが、入場料が高いなどおもしろい動物園にしました。ゲーム機を買って親子でやりたいなと思ったりもしましたがまずそんな費用もなくやめました。」

「休校になったときに、家にネット環境がなくてオンラインでの課題ができず、子供に肩身の狭い思いをさせていただきました。」

「オンラインに必要なものをプレゼントしてあげたかったが、コロナ禍によって仕事を失い、パソコンを購入してあげられなかった。うちにはパソコンが一台も無いです。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「お誕生日は寄付で頂いたホットケーキミックスでケーキを作ってお祝いを食料寄付で負担が少なくなった食費分の中から100均で何個かプレゼントを買って上げましたがバースデーケーキと100均では無いお店でプレゼントを買ってあげたかったです。」

「コロナで家に籠りがちで、子供も感染を怖がるので支援団体や地域のイベントなどに参加しなくなりました。そんな中で楽しむことをしてあげたかったのですが、収入面の不安もあり私のうつ状態も悪化して、頑張れなくて。最低限の家事や学校のことをやり続けるのが精一杯でした。周りの子達は家族でキャンプやアウトドアアクティビティに上手に行っていたりして、うちの子にはそういうこともできなくて胸を痛めています。GOTOなども全く使えず、ただじっとやり過ごす、そんな自分にとがかりすることの連続です。」

「室内で遊ぶおもちゃを買ってあげたかったが経済面で買ってあげられなかった。」

「家で過ごす時間が増えて年齢も上がったのに、なかなか年齢に見合ったおもちゃを用意してあげることが出来ず、せっかく時間があるのに毎日同じような遊びばかりで退屈させてしまった(実際に、同じことばかりでつまらないと言われてしまった)。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「コロナの影響もありなかなか就職先も見付からず、環境の変化で経済面や生活面においてかなりのストレスを抱えてしまった為、衣類や靴など買ってあげたくても買ってあげられなかったり(ゲームやおもちゃ等はもってのほか)

何処かに連れて行ってあげたくてもそれも出来ず食事も同様でした。

『いいよいいよ、要らない』『お金かかるからいいよ』と子供にいつもかなり気を遣わせています。仕事にありつけた今もコロナで儲けが出ないから、と減給の日々で結局あまり状況は変わっていません。子供の気遣いも同様です。」

「新しい本を買ってあげたい、新しいドリルを買ってあげたい、パン屋さんのパンを買ってあげたい、身体を動かすのにボールを買ってあげたい、小さなことができないです。」

「イベントの時や自分のお年玉でおもちゃを買うしか無く、靴や服も買わないといけな場合じゃないと買ってあげられない。お金がかかる水族館などは避け少しでも安く行ける動物園やお金がかからない公園やショッピングセンターに行っていた。

楽しみがないので月に1度は外食をして好きな物を好きなだけ食べさせてあげているが、もっと子どもが喜ぶ事をしてあげたい。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「支援団体の無償イベントなどに頼っていたので、それがなくなってからは近所の公園ぐらいしか出掛けられなくなりました。」

「自家用車がないため、地域（徒歩では無理な距離）のフードパントリーは利用する事ができませんでした。また、経済的な理由でインターネットの環境がないので、オンラインのイベント等参加出来ませんでした。」

「絵本が大好きで自分で1冊選び毎日読んで寝るので月に1冊購入してあげたいという気持ちがあります」

「コロナ禍で衛生用品にもお金がかかり、アレルギー除去食で出費が多い為、食費に回す事が優先になりなかなか絵本の購入が難しい事もありました」

「今、住んでいる地域は観光地なので、友達をよくバーベキューをしているが、私は現在の状況で連れて行ってあげられない。毎週、作文の提出があり、土日は図書館ばかり行っているため、息子はバーベキューなどの楽しい内容を記入するのに苦労している。作文の提出が辛い。バーベキューを一緒にできり、お友達は、東京在住が多く、コロナ禍で会うことができない。」

## コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「オンライン参加型イベントはパソコンやタブレットなどの道具がないので参加を諦めた。購入も考えたけど余裕がなく断念。」

「自宅にインターネットが設置してない為、子供が必要な時に困りました。また、調べ物することも出来ず、図書館も閉館していたためできないこともありました。新しい遊び道具を買うのは難しいです。」

「おもちゃを買ってあげたいが買ってあげられないことが多々あった。スーパーなどに行ってもお菓子も買ってあげられないことも多々あった。本も高いので買ってあげられなかった。Wi-Fiもないので不便」

「図書館に行けなくなったり休校になったり新しい本を買ってあげたいけど、うちは4人分買わないといけないので、ごめんねって我慢させています。」

# 調査結果：1年間で行ったもの

「誕生日のお祝い」「公園で遊ぶ」は同水準だが「家族旅行」は10倍、「外食」は4倍の差に。

■この一年間でおこなったものでみると…

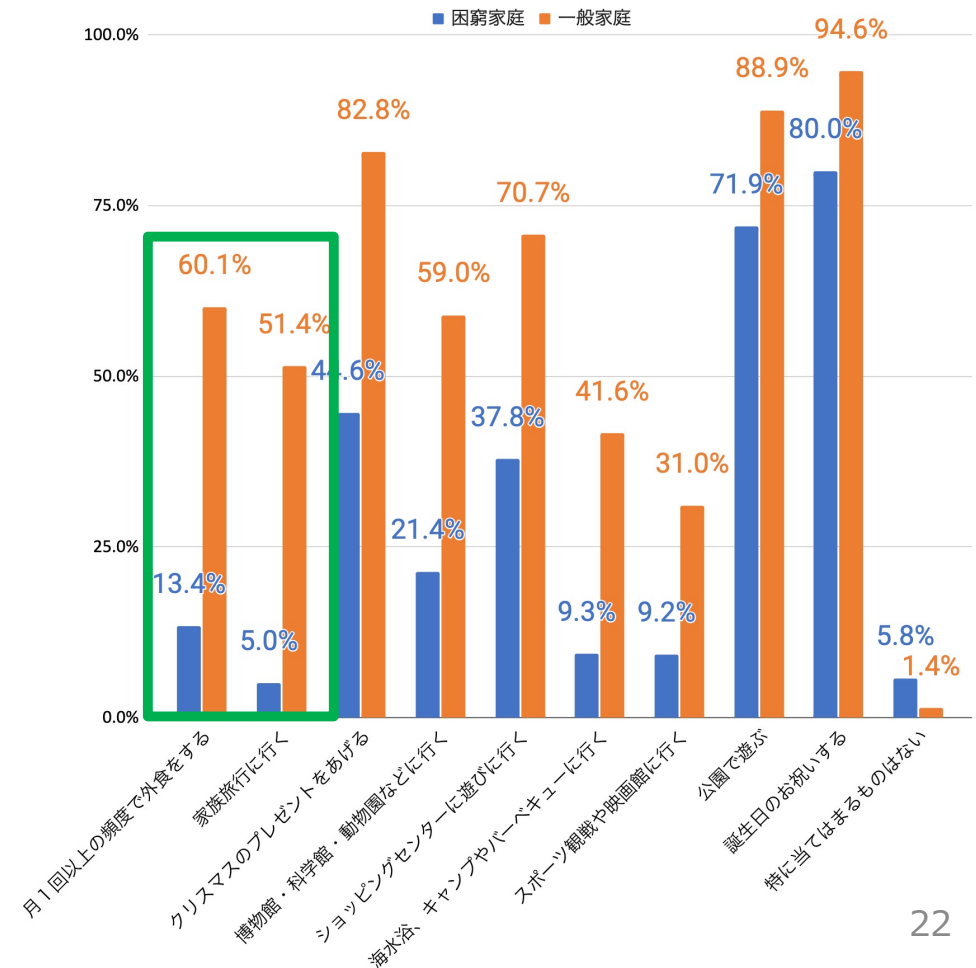
・各項目で顕著な差が出た。「公園で遊ぶ」といった無料で身近なものですら差がある。困窮家庭の親が時間の余裕がないという大きな理由もあるが、定性コメントには『ひとり親のため、万が一コロナ罹患してしまった場合を考えると恐怖で外出ができない』といった不安からくる理由も散見された。

・困窮家庭の55.4%が「クリスマスプレゼントをあげていない」と回答。

・困窮家庭において、子どもの人数が増えると「外食」「家族旅行」「クリスマス」「博物館など」はできなくなる傾向がある。一方で「誕生日」は子どもが増えても影響がない＝それだけ家庭内でのなくてはならない行事と位置づけ。

・一般家庭において、子どもの人数が増えるとできなくなる傾向があるのは「外食」のみで、他は影響がない。

家族での過ごし方について、この一年間で行ったものに当てはまるものにチェックをお願いします。（複数回答可）



## 「イベント」「支援・サービス」は同水準だが「おもちゃ購入」「書籍購入」は5倍の差に。

### ■家庭の中で足りなかったことでみると…

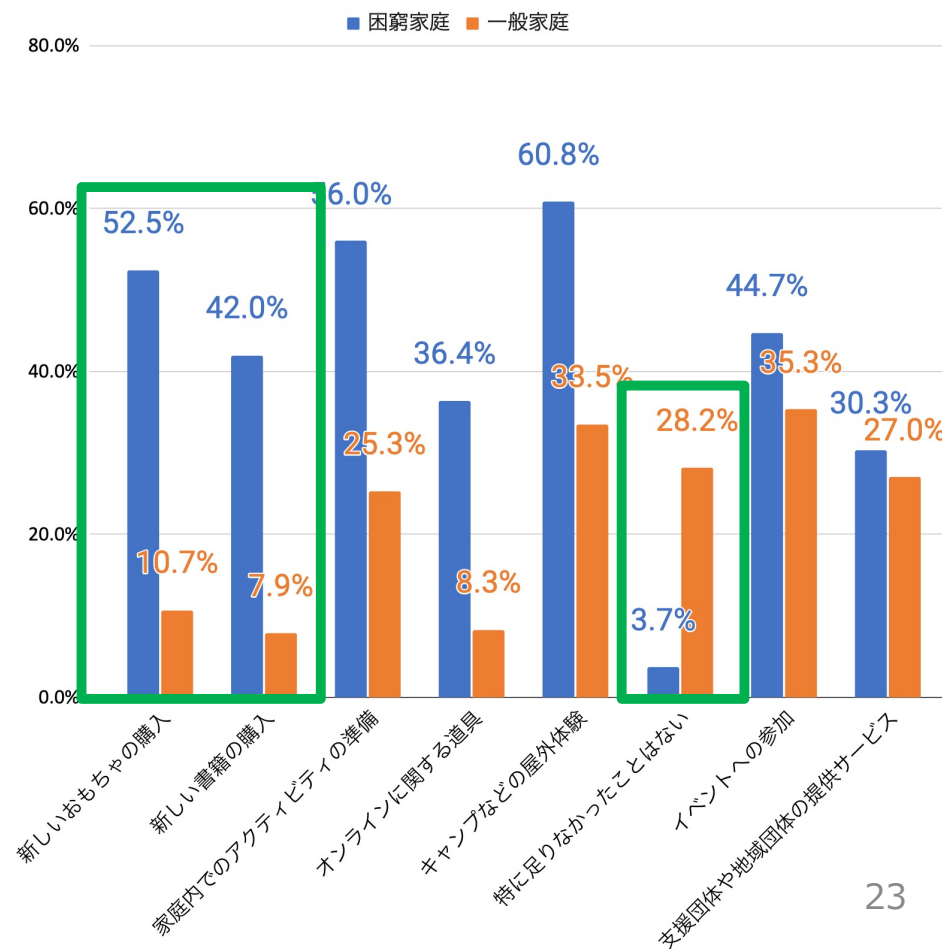
・各項目で差が出たが顕著だったのは「新しいおもちゃの購入」「新しい書籍の購入」「オンラインに関する道具」となった。

・一般家庭で最も低かった（＝足りていた）のは「新しい書籍の購入」となり、家庭内で過ごす事が増えた中で必要性は高まったはずだが、金銭面の都合さえつければ、オンライン書店などから簡単に手に入るため低くなっていることが想像される。「新しいおもちゃや遊び道具の購入」も同様の傾向となった。

・金銭的に解決できることである「新しい書籍の購入」「新しいおもちゃや遊び道具の購入」がどちらも5倍以上の差が出ており、この結果に一般家庭と困窮家庭の経済的な格差がしっかりと示されたと言える。

・一般家庭の約3割（28.2%）が「特に足りなかったことはない」と回答したことにも注目したい。最も格差を感じさせる結果かもしれない。

新型コロナ以降、家庭の中で足りなかったこと（用意・利用できなかった）を選択してください。（複数選択可）



## 2019年と現在のしんどさを比較すると、元々きびしい状況にあった困窮家庭がさらにしんどさを増している可能性

### ■生活のしんどさ（10点満点）でみると…

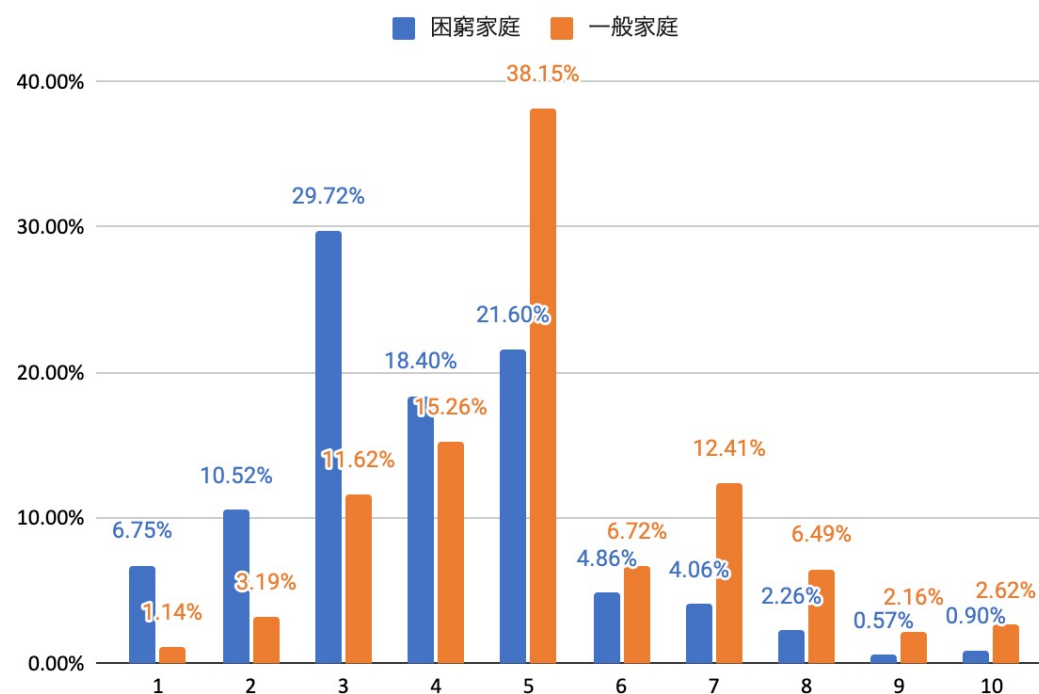
・（2019年と比較して）生活状況が改善したのは、困窮家庭が13%、一般家庭が30%

・悪化したのは困窮家庭が65%、一般家庭が31%。一般家庭でも3割はしんどくなったと回答している。

・もともと困窮していた家庭やギリギリのところではふんばっていた家庭がよりしんどくなっている可能性がある。

・子どもの人数による差異は見られなかった。

2019年の生活を10点満点で5点とした時に、現在の生活のしんどさを教えてください。（例:良くなった場合7点、変わらない:5点、悪化した場合:3点など）





頼れる相手は、身近な親・親戚＞友人・知人＞学校などの順となり、距離的な近さと「顔が見える相手」であることが影響

## ■困ったときの頼れる相手でみると…

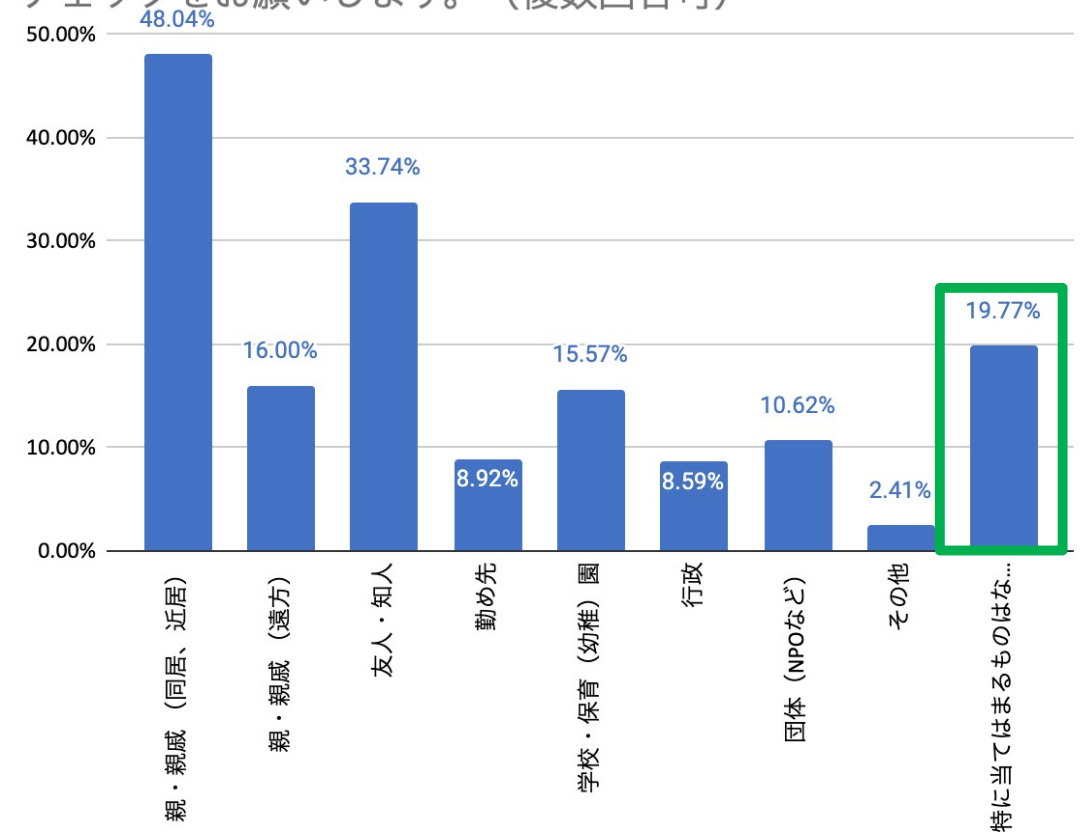
・20%が「特に頼れる相手がいない」と回答。

・クロス集計でみると、頼れる相手がいないとしんどさが高くなる傾向となる。弊団体でもこういった層へ意識的にアプローチをしていくなどを検討していく。

・困窮家庭が困った時に頼れる相手「団体（NPOなど）」と回答したのは10%に留まる。

・回答者の属性として、弊団体以外にも他NPOとつながっている割合が45%以上ある中で、信頼できる先に挙げられていない。行政・学校など組織で対応するところと、親戚・友人など個人としても、どちらともつかない位置付けに見られている可能性。

困り事があった際に頼れる相手について、当てはまるものにチェックをお願いします。（複数回答可）



# 調査結果：誕生日の準備（プレゼント）

誕生日の準備について、困窮家庭は3割はプレゼントを諦め、2割がケーキを諦めている。

■お子さんの誕生日の準備したもの【プレゼント】でみると…

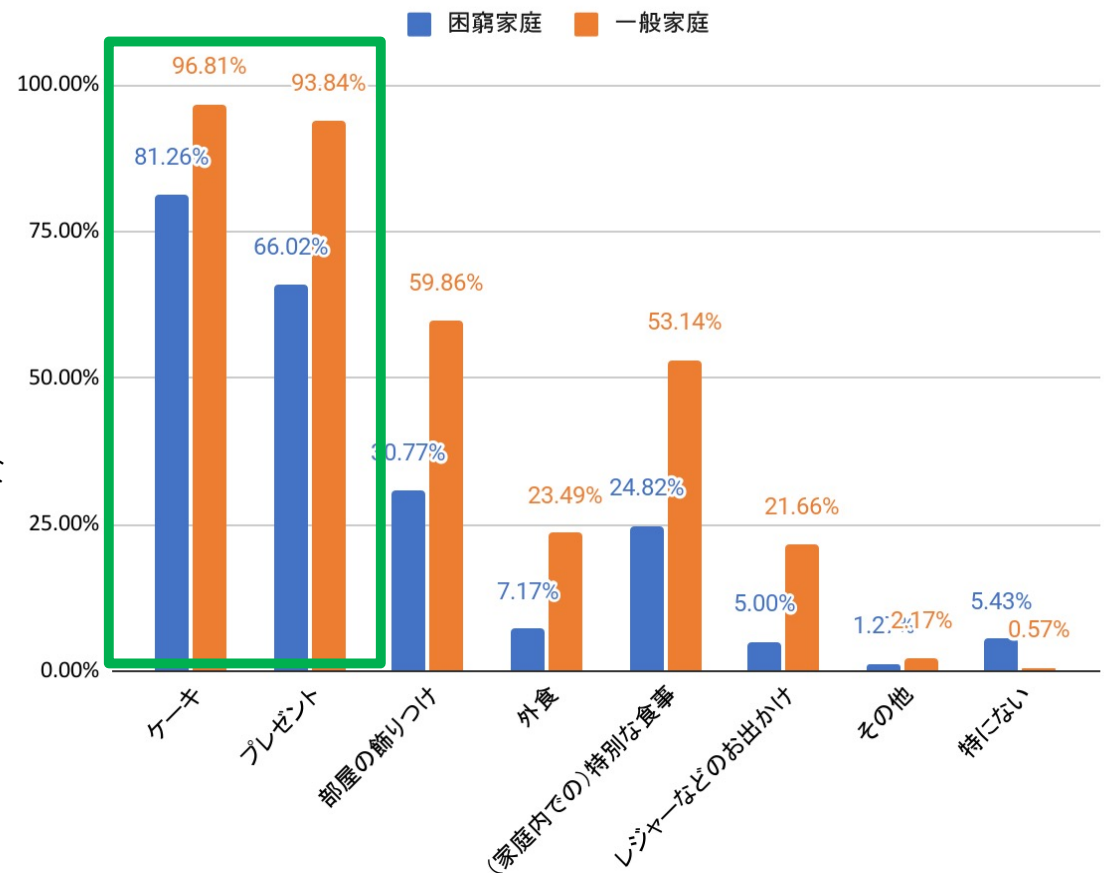
・各項目で差が出たが顕著だったのは「レジャーなどのお出かけ」「外食」「（家庭内での）特別な食事」となった。

・困窮家庭のプレゼントは、子どもの人数が増えるほど準備できなくなる傾向。一方、一般家庭は人数による影響はなかった。

・困窮家庭の5%は、誕生日を一切お祝いしていない。対して、一般家庭は0.6%で約10倍の差。

・定性コメントには、親からの悲痛な叫びや自責の念に押し潰されそうな様子も散見された。

お子さんの誕生日の準備について、行ったもの・準備したものを教えてください。（複数選択）



# 調査結果：誕生日の準備（ケーキ）

誕生日の準備について「ケーキ」は、一般・困窮家庭ともに何よりも優先して準備するものとなっている。

■お子さんの誕生日の準備したもの【ケーキ】でみると…

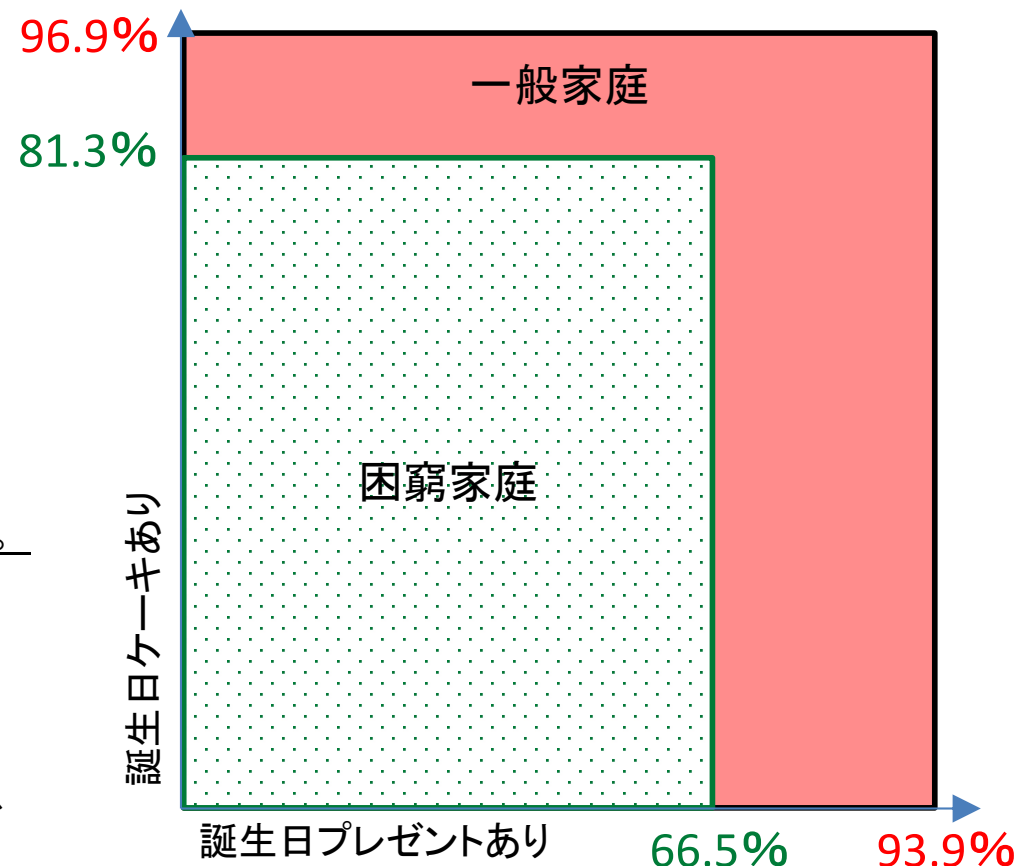
・どの項目でも一定の差異があるが「ケーキ」が最も肉薄。定性コメントでもケーキだけはなんとか準備しようという様子があった。

・一般家庭でケーキを準備していない3.1%をみると、ケーキ不要の乳児や（一般枠で回答しているが実質的には）困窮家庭であることが大半。実質的には限りなく100%に近い家庭が準備している。

・ケーキは、子どもの人数が増えても影響はなかった。

・定性コメントでは「ケーキのみ準備してプレゼントは準備できなかった」「ケーキの支援があったためプレゼントの予算が捻出できた」などの声もあった。

※ケーキについての予算など詳細が不明瞭だったため、現在追加調査を実施中。



## 誕生日の準備する感情について、「切ない」は7倍、「しんどい」は5倍の差に。

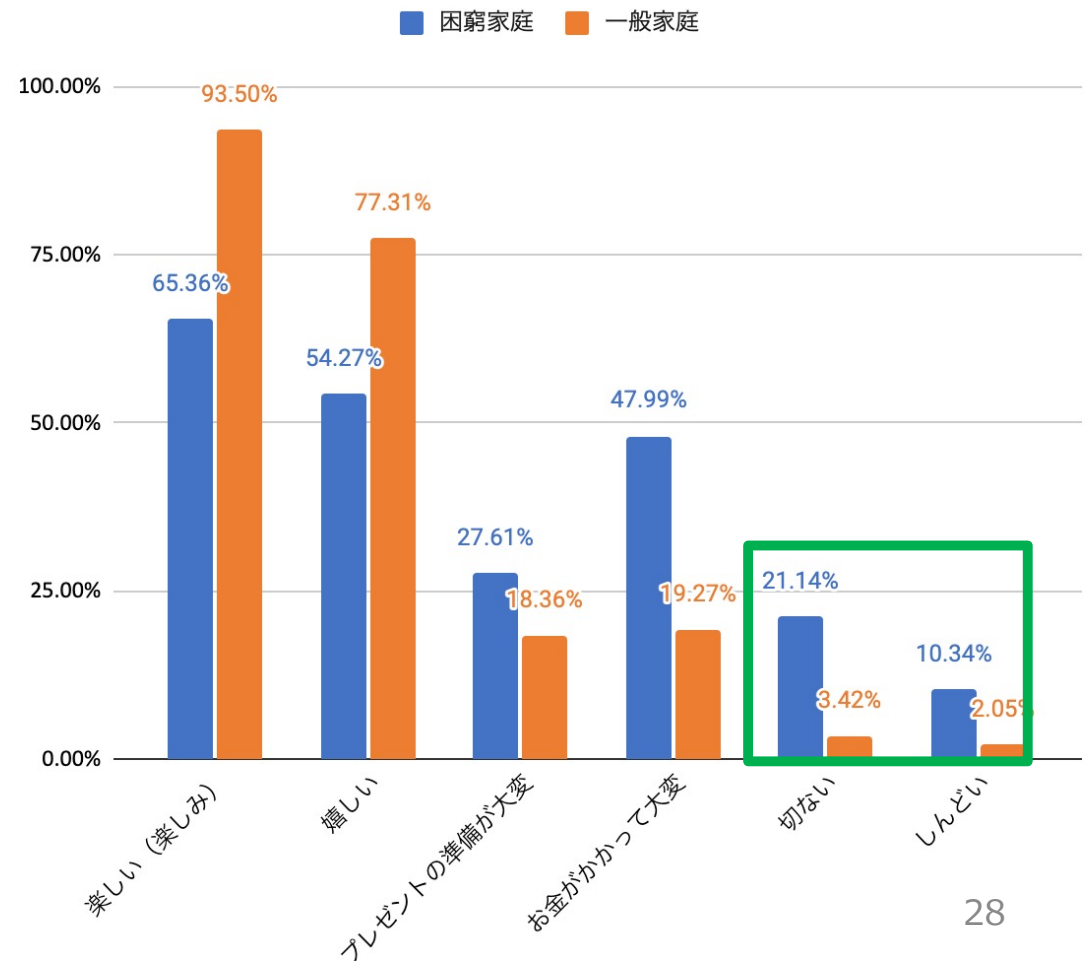
■お子さんの誕生日の準備する際の感情でみると...

・困窮家庭は、相対的に「楽しい」「嬉しい」が減り、「切ない」「しんどい」「お金がかかって大変」が増える傾向がわかった。

・困窮家庭は、子どもの人数が増えると「楽しい」「嬉しい」は減り、「お金がかかって大変」は増える傾向。それに対して、一般家庭は子どもの人数が増えると「楽しい」「嬉しい」が増える。

- ・「切ない」は21%を感じる（一般家庭の7倍）
- ・「しんどい」は10%を感じる（一般家庭の5倍）

お子さんの誕生日を準備する中で、どのような感情になったかを選択してください（複数選択）



## コロナ禍の体験調査まとめ

コロナ禍になり、子育て家庭の中でも困窮家庭がよりしんどくなり、様々な子どもの体験を諦めている割合が相対的に高い。

同時に、保護者は諦めさせた経験を通じて、親子ともに劣等感やあきらめを感じることが明らかに増えている。（継続する可能性高い）

## 課題と追加調査について

「誕生日の準備における予算」が今回は不明瞭となった。例えば、ケーキの準備をした割合を比べるだけでなく、実際のケーキ準備費用をみることで更に深掘りできた可能性がある。

これらのことから別途追加調査を行っていく計画。

## 団体として今後取り組むこと

① 「頼る相手がおらず、しんどさが高い家庭」への支援モデル作り  
(今回の対象では約300世帯が該当)

② 優先度が最も高い「困窮家庭の子どもの誕生日」への支援  
ケーキ店と連携し「誕生日ケーキ」を困窮家庭に届ける新しい事業  
の構築 (岡山・広島でテスト実施中→順次エリア拡大)

NO	カテゴリ	設問	回答選択肢
1	一般質問	家族での過ごし方について、この一年間で行ったものに当てはまるものにチェックをお願いします。(複数選択)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回以上の頻度で外食をする</li> <li>・海水浴、キャンプやバーベキューに行く</li> <li>・博物館・科学館・動物園などに行く</li> <li>・スポーツ観戦や映画館に行く</li> <li>・家族旅行に行く</li> <li>・クリスマスのプレゼントをあげる</li> <li>・誕生日のお祝いする</li> <li>・公園で遊ぶ</li> <li>・ショッピングセンターに遊びに行く</li> <li>・特に当てはまるものはない</li> </ul>
2	コロナ	新型コロナが発生以降で、あなたの家庭で増えたことを教えてください(複数選択・その他選択のときは自由記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子の会話</li> <li>・子どものお手伝いの機会</li> <li>・自然体験(キャンプや登山など)</li> <li>・社会体験(農業体験、仕事体験など)</li> <li>・文化的体験(動植物園見学、音楽・演劇鑑賞など)</li> <li>・家族旅行</li> <li>・季節行事のお祝い(お正月、こどもの日など)</li> <li>・テレビやyoutube、ゲームなどメディアの利用</li> <li>・その他</li> </ul>
3	コロナ	新型コロナが発生以降で、あなたの家庭で減ったことを教えてください(複数選択・その他選択のときは自由記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子の会話</li> <li>・子どものお手伝いの機会</li> <li>・自然体験(キャンプや登山など)</li> <li>・社会体験(農業体験、仕事体験など)</li> <li>・文化的体験(動植物園見学、音楽・演劇鑑賞など)</li> <li>・家族旅行</li> <li>・季節行事のお祝い(お正月、こどもの日など)</li> <li>・テレビやyoutube、ゲームなどメディアの利用</li> <li>・その他</li> </ul>
4	コロナ	2019年の生活を10点満点で5点とした時に、現在の生活のしんどさを教えてください(例:良くなった場合7点、変わらない:5点、悪化した場合:3点など)	10~0から選択
5	コロナ	新型コロナ以降、家庭の中で足りなかったこと(用意・利用ができなかった)を選択してください(複数選択)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいおもちゃや遊び道具の購入</li> <li>・オンラインに関する道具(wifi、パソコン、タブレットなど)</li> <li>・家庭内でのアクティビティの準備(おうちキャンプ、家庭用プールなど)</li> <li>・支援団体や地域団体の提供するサービス(無償の企画など)</li> <li>・感染対策を行なったイベントやオンラインイベントへの参加</li> <li>・新しい書籍の購入</li> <li>・家族のみでの体験(キャンプなどの屋外体験)</li> <li>・特に足りなかったことはない</li> </ul>

# 調査票

NO	カテゴリ	設問	回答選択肢
6	コロナ	上記のような家族の過ごし方において「してあげたかった(けれどしてあげられなかった)」具体的なエピソードがあれば教えてください。	自由記述(任意)
7	コロナ	その他、コロナ禍の体験に関することで感じたことを教えてください。(ネガティブなことポジティブなことどちらも)。	自由記述(任意)
8	誕生日	お子さんの誕生日の準備について、行ったもの・準備したものを教えてください。(複数選択)	(選択肢) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーキ</li> <li>・プレゼント</li> <li>・部屋の飾りつけ</li> <li>・外食</li> <li>・(家庭内での)特別な食事</li> <li>・レジャーなどのお出かけ</li> <li>・その他</li> <li>・特にない</li> </ul>
9	誕生日	お子さんの誕生日を準備する中で、どのような感情になったかを選択してください(複数選択)	(選択肢) <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しい(楽しみ)</li> <li>・嬉しい</li> <li>・プレゼントの準備が大変</li> <li>・お金がかかって大変</li> <li>・切ない</li> <li>・しんどい</li> </ul>